



ここは津市大門商店街。かつては中心商業地として栄えた。しかし、自動車社会や大型店舗の進出、都心人口の流出などの影響により衰退している。

「ここに居るひと／商店街」のために

大門商店街では、祭りやワークショップなどのイベント、公設市場やチャレンジショップなどの活性化策をとっているが、飲食店以外は成果が出ていない。店前通行量を増やしても購買客とはならない。中高齢者向けの生活用品店が多いため、主な購買客は、周辺の住人であり、中高齢者なのである。

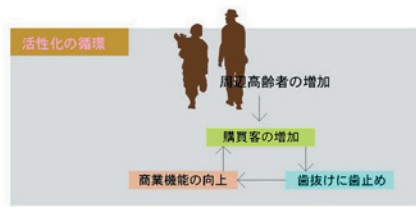
ならば、周辺の高齢者の居住人口を増やすことによって、購買客を増やし、活性化の循環をつくることはできないだろうか。

「ここに要るひと／高齢者」のために

ここ津市でも高齢化が進み、高齢者居住施設、在宅介護支援施設を充実させる必要がある。しかし現状の居住施設は、郊外に立地するケースが多く、地域社会との関わりが断たれてしまう。また、在宅の高齢者でも、周りに商店や公共施設、交通機関がないために家に閉じこもってしまうという問題がある。

高齢者の自立した、豊かな生活のために、半径500mの圏域の中に生活に必要な施設が必要である。大門商店街の中には商店はもちろん、病院やコミュニティ施設、すぐ外には主要なバス停があり、高齢者の居住地として魅力的である。

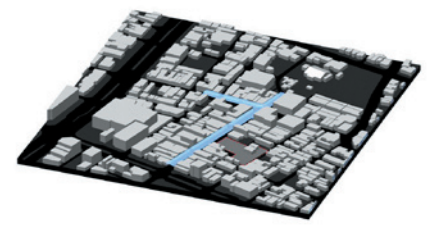
よって、高齢者の商店街居住を提案する



# PROJECT FLOW

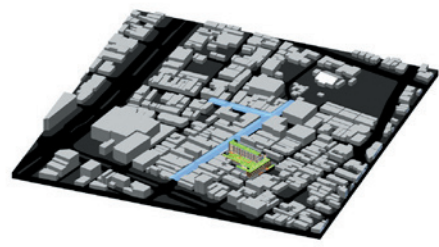
## 現状

空き店舗や月極駐車場が目立つ。とくにアーケード中腹に大きな駐車場があり商業機能の低下を表している。文化活動やワークショップなどが行われ商店街の機能は多様化している。



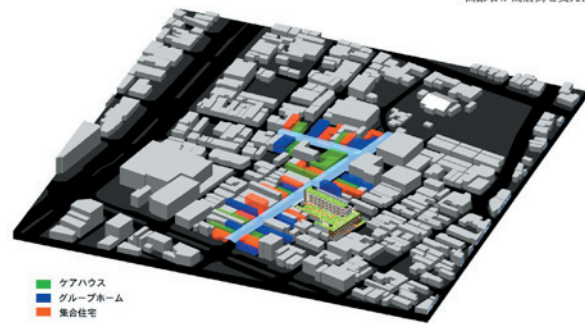
## 始めの一步(設計案)

アーケード中腹の駐車場に、高齢者の居住施設と生活を支援するための福祉施設を併設する。商店街の商扶けを埋め、居住者／購買客を充填することにより、商店街に刺激をあたえる。



## 将来

店舗付きのケアハウスやグループホーム、集合住宅などが商店街に挿入されていく。高齢者が商店街を支え、商店街が高齢者の生活を支えるという関係がつけられていく。



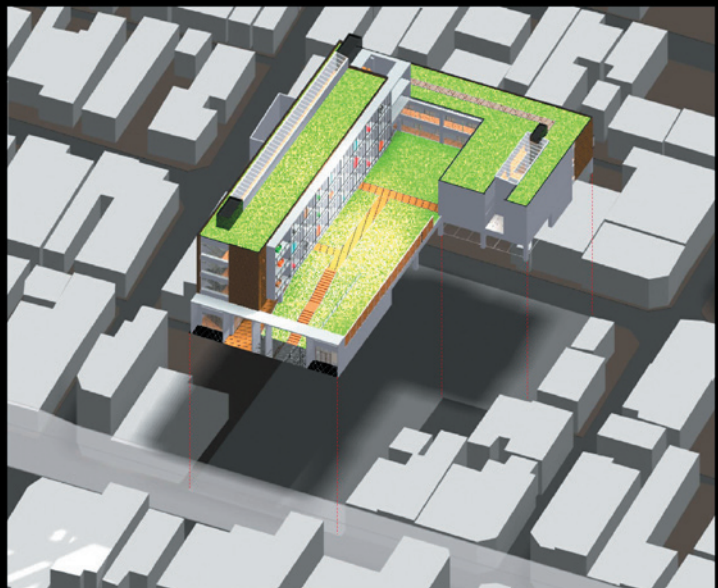
- ケアハウス
- グループホーム
- 集合住宅

そして商店街と高齢者は共に元気になっていく

ここに居るひと、ここに要るひと  
 BEING AND NECESSARY PEOPLE  
 HISAKI TETSURO ARCHITECTURE  
 HISAKI TETSURO PARTNER

03

# DESIGN

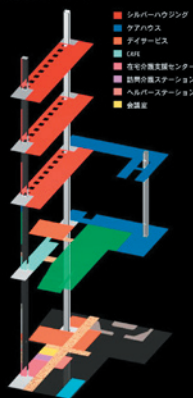


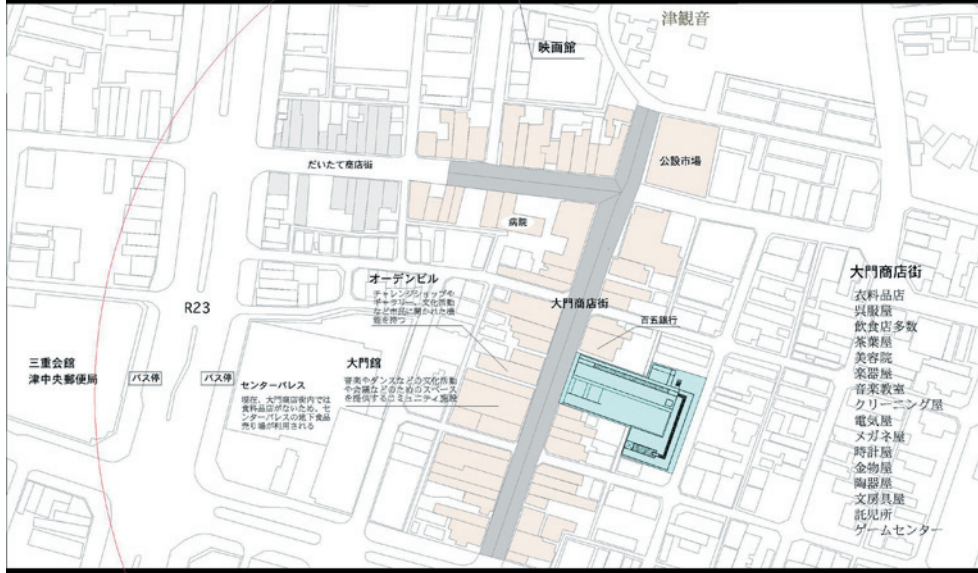
### PROGRAM

- ・シルバーハウジング  
 (単身者用21戸、夫婦用3戸)
- ・ケアハウス  
 (単身者用17戸、夫婦用1戸)
- ・デイサービス
- ・在宅介護支援センター
- ・訪問看護ステーション
- ・ヘルパーステーション
- ・店舗

### DIAGRAM

- シルバーハウジング
- ケアハウス
- デイサービス
- 日中
- 在宅介護支援センター
- 訪問看護ステーション
- ヘルパーステーション
- 店舗






**SITE PLAN S 1:1000**

ここに居るひと、ここに要るひと  
 BEING AND NECESSARY PEOPLE  
 HISAKI TETSURO ARCHITECTURE  
 HISAKI TETSURO PARTNER

04

## ELEVATIONS S 1:300




EAST ELEVATION

WEST ELEVATION


SOUTH ELEVATION

NORTH ELEVATION




**商店街側ファサード**

鉛直基調のゲートが隣街界の連続性を保ちつつ開放感を与える。住人にとっては門であり、商店街の溜まりの空間ともなる。



**B-B' SECTION**



**A-A' SECTION**

## SECTIONS S 1:200

